

事業名

さくらプロジェクトⅢ

目 標

将来の地域の担い手としてのしなやかな感性を育む環境づくりと体験活動

1. 取組の視点

奈良市東部の里山と田畑のなかに民家が点在する柳生地区。柳生地区は、「剣聖の里」として全国的にも有名で、多くの史跡、伝統が残され、大切に守られてきています。

柳生小・中学校は合わせても児童生徒数70名1学年1学級の小さな学校です。柳生小学校の卒業生は、ほとんど全員が柳生中学校に進学し、互いのことをよく理解しており仲が良い反面、少人数の同一集団での成長は人間関係の固定化を生み、自己表現力やコミュニケーション能力の乏しさが課題となっています。

本事業では小・中学校の取組を支援するとともに、地域再生のシンボルとしての摩利支天山を再生し、桜の景観復活を目指しました。

2. 取組の概要

① 環境整備活動 摩利支天山再生

摩利支天山は、地域の過疎化や高齢化が進み、地域で手入れを続けることができなくなり、学校にも独自にこの山を管理する力はなく、徐々に雑木林となりました。平成22年に、本事業が始まり地域再生のシンボルとして、地域と学校が協力して摩利支天山再生を進めることになりました。



巣箱かけ

草刈り作業は、教員と地域のボランティアの協力で年3~4回行われ、生徒たちは、植えた桜に肥料を与えたりする

手入れを行っています。

② 学習支援活動 ニッポンバラタナゴ里親

中学校の実習用水田跡に湿性ビオトープを造成。近畿大学農学部水圏形態学研究室との連携した

「ニッポンバラタナゴ里親プロジェクト」に取り組んでいます。自然に親しむとともに生物や人の営みとの繋がりについて考える機会となっています。大学との連携によって、プロジェクトの意義や絶滅危惧種の保護等について大学の先生の



講義を受けたり、観察等で大学生とともに活動することは、生徒にとり貴重なまなびの機会となっています。

③ 伝統伝承活動

柳生中学校区では、今年度で98回目(年1回開催)を迎える大運動会を保育園、小学校、中学校、地域と合同で行っています。また、日頃から地域の伝統である木剣体操や柳生音頭を授業に取り入れ、運動会でも毎年小中合同で演じ伝統を受け継いでいます。



3. 成果と課題

柳生小・中学校は昔から地域に支えられた学校であり、大きな変化は生まれていないかも知れませんが、地域の方々に「学校づくりへの意識」「信頼関係」「教育の内容」が深まったように思われます。来年度に向けての課題として、現在の事業は特定の方々に依存しています。この方々は、地域でも民生委員や自治会の役員など、多くの役職をかねておられることが多いです。地域の活動も多く負担が大きくなっています。状況や年齢も考えれば、今後の活動を見越してさらに多くの人材の確保が必要となってきます。

事業名

さわらびプロジェクトⅢ

目標

地域資産や外部人材を活用し、本物に触れる体験やユネスコスクールとしての活動を行うことで、地域の担い手を育てる。

1. 取組の視点

外部指導者による本物に触れる体験学習の充実と地域や伝統文化の再発見・再評価に取り組むことにより、生徒に自信と地域への誇りを育むことを目指しました。

中学生だけでなく、小学校にも呼びかけて一緒に学習する機会を持つことで、地域との協働、小中一貫教育の推進を図ります。

2. 取組の概要

○「ニッポンバラタナゴ里親プロジェクト」

近畿大学と連携した取組は2年目を迎え、昨年の課題を踏まえて池の改修や整備を行い、継続的に観察できました。今年度の池干しでは、ニッポンバラタナゴの予想を上回る繁殖が確認でき、今後の活動に大きな励みとなりました。定期的に大学の先生や大学生の出前授業も受けることができ、多様な学びの機会を得ています。

ニッポンバラタナゴ里親活動
(近畿大学農学部環境管理学科水圏生態学研究室との連携)



○星空観察教室

秋と冬に星空観察教室を開催。月や冬の星座・惑星を観察し、デジタルカメラでの撮影を学びました。中学生と小学生・大人も一緒に学ぶ機会を持つことができました。

○「古都ならの世界遺産現地学習」

自ら学習計画をたて、奈良町や博物館での班別学習を実施。調べ学習や現地学習を通じ、世界遺産学習を深めることができました。

○和楽器「尺八」体験学習

地域の方とともに外部指導者の演奏を鑑

賞、その後、生徒は尺八の吹き方等を学びました。学習活動を参観してもらう機会にもなりました。

○人権学習・キャリア教育

全校生徒が縦割り2班に分かれて、市内の高齢者福祉施設を訪問。職業体験とともに楽器演奏・劇などで入所高齢者の方と交流しました。

○教育講演会

国内外で貴重な文化遺産の修復等に関わってこられた石工の左野勝司氏を迎え、教育講演会を実施し、地域の方とともにお話を聞きました。仕事について学ぶとともに生き方を考えさせる機会となりました。



3. 成果と課題

本物に触れる体験学習は、本校ならではの機動性をいかして全校体制での取組ができています。地域と協働する機会も増え、学校の存在感が高まり、学校評価でも本事業に対する取組は生徒 80%・保護者 84%と肯定的に捉えられています。

来年度も生徒数の減少は続きますが、地域の歴史や自然を再発見・再評価する取組を継続しながら、地域と手を携えた活動をさらに進めていく必要があります。また、こうした取組を生徒の手でも発信し、学校の存在感や元気を地域に伝えていきたいです。

事業名

「いきいきわくわく元気な柳生っ子」プラン

目標

柳生のよさを知り、柳生を誇りに思う子どもを育てる

1. 取組の視点

柳生小学校では「柳生で学び・柳生を誇りに思い、柳生を語れる子ども」を基礎とし、「奈良で学んだことを誇らしげに語れる子ども」を育てるため、学校と地域との協働による関係づくりを推進してきました。そして、本年度は、以下の3つの柱を中心にこの事業に取組を進めてきました。

①伝統・文化を体験する取組（剣道大会・柳生歴史教室・炭焼き体験・煎茶道・柳生焼き等）

②環境整備・地域連携を深める取組

（親子の集い・全校花苗植え・環境整備等）

③学習や教科内容を深める取組

（お話の会・米作り・茶摘み・絵手紙等）

2. 取組の概要（各取組より一つずつ抜粋）

【剣道大会（伝統・文化を体験する取組）】

地域の柳生剣友会、柳生中学校、保護者のご協力で、柳生小学校の特色ある行事である『剣道大会』（今年度は第43回大会）を今年も2月の厳寒の時期に行いました。この剣道の取組により、子どもたちの心・技・体を鍛えることができました。また、規範意識の向上や礼儀を重んじる心の教育を推進することができました。



【親子の集い（地域連携を深める取組）】

親子や地域の連携を深めるため、大人も子どもと一緒に楽しめる「親子の集い」を体育館で行いました。本年度はいろいろな飛行機づくりを講師に教わりました。自分で作った飛行機が、長くあ

るいはいろいろな軌跡で飛んだので、子どもも大人も大変盛り上がった2時間を共有することで、今まで以上に親子・地域の絆が深まりました。



【茶摘み体験・煎茶道体験（学習や教科内容を深める取組）】

古くからお茶の産地である柳生地区の茶畑の見学や茶摘み体験学習を地域の方のご協力により行いました。また、煎茶道の講師として地域の方を招き、高学年の家庭科の時間に茶道体験学習も行いました。子どもたちは、「和の心」や礼儀作法について学ぶことができました。



3. 成果と課題

本事業において、柳生小学校地域の特色ある体験学習を充実・発展させることができました。これによって、子どもたちが地域の方々に感謝しながら、『柳生』で学んでいることや『柳生』に生まれ育ってきたことを実感することができ、今まで以上に自分たちの郷土を誇りに思う気持ちが強くなったように思います。